

賀田山町周辺の遺跡



賀田山遺跡周辺ではこれまで、古墳時代～平安時代の遺物散布地として知られる鍬取遺跡のほかは、遺跡の存在が知られていませんでした。一昨年度から行われている試掘・発掘調査によって、あらたに遺跡の広がりが確認されました。

●～観音さまの里帰り～●

昨年度(H27年度)には県道2号(通称・朝鮮人街道)の北西側を調査し、平安時代～鎌倉時代の建物や井戸などとともに土器などの遺物がみつかっています。このうち、白磁の観音像を今回の説明会にあわせて、展示しています(展示棟内・説明会当日限り)。

賀田山遺跡発掘調査説明会資料

平成28(2016)年8月27日(土)／公益財団法人滋賀県文化財保護協会



犬上南部地区亀山工区排水路第4工事に伴い、滋賀県教育委員会の依頼により、発掘調査を行っています。

- ◇遺跡名 : 賀田山(かたやま)遺跡
- ◇調査面積 : 2,810m²
- ◇調査期間 : 平成28年4月～9月(予定)
- ◇調査主体 : 滋賀県教育委員会
- 調査機関 : 公益財団法人滋賀県文化財保護協会

(山崎山から調査地をのぞむ)

いまから30年ほど前、賀田山町周辺で水田面や用排水路など水田のしくみを整える耕地整理が行われました(ほ場整備)。このことが現在の水田景観となっているのですが、これより数百年前にも大がかりな耕地整理が行われていました。これを“条里制”と呼んでいます。これまでの調査・研究では彦根市域の大半にこの耕地整理が行われ、その水田は現在の水田と同じ向きに並んでいたと考えられています。

今回の発掘調査では、現在の水田と同じ向きに、平安時代～鎌倉時代の建物や溝、耕作痕がみつかり、この頃には条里が普及していたことが明らかになりました。みつかった建物や溝、耕作痕は、区画された耕地と管理者の建物と考えられます。

建物は「掘立柱建物」といわれるもので、現代のようにコンクリートや石の上に柱を置くのではなく、地面に穴を掘って柱を立てます。現在7棟が確認されており、柱の根が残っていたものもあります。さらにこれらの建物を区画する溝も確認されました。

また、これらとともに髪留めや箸などの木製品、砥石、銭貨(お金)、椀や皿、鉢、甕、釜などの土器がみつかっています。土器の種類には須恵器、土師器、灰釉陶器、山茶碗、黒色土器、常滑焼、白磁、綠釉陶器などがあります。

綠釉陶器や白磁などはありふれた日常雑器ではなく、高級食器として知られます。調査でみつかった耕作痕と直接かかわるものでないため、調査区の周辺に役人や位の高い人の出入りする、また、おもてなしをするような施設があったと考えられます。

今回の発掘調査によって、賀田山遺跡の一端が明らかになりました。遺跡の全貌そして賀田山町周辺の歴史については、今後の調査・研究によって、ますます解明していくものと思われます。



建物には柱根が残っているものもありました。



建物。調査区の外へ続いているようです。

建物と区画溝。左手前の白線○が柱穴。建物を囲うように溝が伸びます。

